



岩船魂

めざす岩船っ子の姿（教育目標） 「深く考え 優しく思いやり たくましくやりぬく子」

村上市立岩船小学校
学校だより No.4
令和5年8月1日
<http://www.iwafune.ne.jp/~iwax2-10>
E-mail:school@iwafune-e.murakami.ed.jp

スマホ等に依存しない夏休みを』

校長 佐藤 進

7月25日から夏休みが始まりました。夏休みといったら、海やプールでの水遊びや釣り、友達と虫取りをしたり、公園で遊んだりした思い出がある方も多いと思います。しかし、最近は夏休みでも子どもの姿を見かけなくなったという声が聞こえてきます。その要因は、ゲーム機を使った遊びやスマートフォン（以下：スマホ）やタブレットでのSNSや動画の視聴が増え、室内で遊ぶ子どもが増えたことによります。

スマホは、とても便利な道具です。大人でもついついスマホに手を伸ばし、様々な情報を入手したり、SNSや映像にのめりこんでしまったりして、あっという間に時間が過ぎてしまいます。子どもにとっても同様で、インターネットにつながるスマホ等（ゲーム機やタブレット等含）は、とても魅力的なものです。

しかし、こうしたスマホ社会に警鐘を鳴らす本がたくさん出版され、脳への悪影響を伝えています。私が読んだ「スマホが学力を破壊する（川島隆太著 集英社新書）」という本は、学力低下を説く衝撃的なものでした。川島隆太氏は、脳トレの第一人者で、東北大学加齢医学研究所の所長でもあります。その川島氏が仙台市の中学生を対象とした調査で、次のことが明らかになったというのです。

- ① スマホ等を使う習慣をもつことによって学力が下がる。
- ② スマホ等を使用するのをやめると、学力が戻る。
- ③ スマホ等を長時間使うことで、脳に何か悪い影響が生じた。（勉強時間が減った、睡眠時間が減ったことが原因ではない。）
- ④ スマホ等の使用時間に応じて学力低下がみられる原因が、ア：学校で獲得した学習の記憶が消える、イ：基本的な学習能力が低下し学校の授業で学習がうまく成立しなかった、のいずれかである可能性が高い。

簡単に言うと、スマホ等を使えば使うほど脳に悪影響を及ぼし学力が下がるということです。スマホ等が夏休みを唯一楽しく過ごすアイテムになってはいけません。機械に頼らず工夫して遊ぶこと、運動をすること、読書をすること、手伝いをすることなど、スマホ等から離れて過ごす夏休みにしてほしいと思います。

子どもたちの歓声が岩船に響き渡り、家庭や地域からパワーをもらって、2学期には元気に学校に戻ってきてほしいと願っています。（ただ、ルール違反や迷惑になる行為を見かけたら、学校へお知らせください）



12年生海となかよし
～波を待つ！～

1学期間、保護者、地域の皆様からのご理解、ご支援に感謝申し上げます。

7月のトピックス

7日 1.2年 海とかよし



1.2年生が7日に海に行ってきました。縦割り班でチームになって、クイズなどをした後で、お待ちかねの水遊びをしました。最初は恐る恐る水につかっていましたが、だんだん慣れてきて、水を楽しんでいる様子があちらこちらに見られました。

海は岩船の宝です。安全に楽しく親しんでいってほしいと願っています。

11日 3.4年 ヒラメの放流

岩船漁協の方々の協力を得て、3.4年生がヒラメの放流を行いました。伴田支所長さんの説明を聞いてから、5cm程度に育ったヒラメの稚魚を、バケツに入れて放流しました。

子どもたちは、「かわいい。」とか「元気で帰ってきてね。」など口々に言いながら放流しました。全部で約2000匹あったそうです。その後で、海に入って遊んでから帰ってきました。



13日 5.6年 自殺予防授業

スクールカウンセラーの高橋透さんを講師に、5年生と6年生がそれぞれ自殺予防授業を行いました。

「こんな場面でどう伝える」と投げかけられた問いに、それぞれが相手を傷つけないように上手に伝える話し方を考えました。グループで実演し、よりよい伝え方を考える授業でした。



5年生の授業の一コマ ↑

カウンセラー授業の振り返り

6年 佐藤 瑞雅

僕は授業で、友達に対しても礼儀正しく接することが大切だということを感じました。いくら仲のよい友達とはいえ、言い方ひとつで相手への伝わり方が変わってしまいます。なので、これからは友達に何かを伝える時は、礼儀正しく、言い方を柔らかくしていきたいです。

20日 うちわ寄贈

山木組の鈴木社長が20日に来校され、全校にうちわを寄付していただきました。子どもたちは大喜びで各家庭に持ち帰りました。



18日 3~6年 科学研究説明会

渡邊治樹教諭が、3~6年生に科学研究の仕方について説明を行いました。



起き上がるカエルなどを児童が実際に作りながら、「条件をそろえること」「研究にするには、どう進めたらよいか」など学んでいました。

夏休みに大いに役立ててほしいものです。

150周年記念事業①

廃材アート贈呈式

岩船小学校出身のアーティストの加治聖哉さんが、岩船の海をモチーフに廃材で作成した作品を贈呈してくださいました。

6月30日に来校し、全校児童に作品について解説してくれました。贈呈した後で、全校児童を代表して、野上蒼さんがお礼の言葉を述べました。

贈呈していただいた作品は、今年度中、児童玄関の正面に飾ってありますので、来校の際は、ご覧になってください。



作品について解説



150周年記念事業②

150周年記念人文字撮影

7月3日に、延期されていた人文字撮影を行いました。全校児童、職員、また当日都合のつく保護者と地域の方に参加していただき人文字を作りました。

AKIFACTRY 様の協力を得て、ドローンを使って写真を撮りました。この写真は、3月に配付予定の150周年記念誌に掲載する予定です。



↑できた人文字 150が児童

6年野上蒼さんからお礼の言葉←



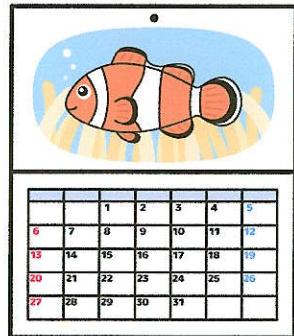
※ この様子は、新潟日報、村上新聞、いわふね新聞にも掲載されていますので合わせてご覧ください



作品名「荒磯」と 加治聖哉氏本人 ↑

夏休みの学習習慣定着のために

夏休みが始まっています。まもなく1週間を過ぎる頃ですが、子どもたちの様子はどうでしょうか。規則正しい生活を送ることができているでしょうか。生活が乱れがちになるこの時期、規則正しい生活を送るための方法を教育評論家の親野智可等さんがベネッセの教育サイトでアドバイスしていましたので紹介します。それは、時間の「見える化」と「やる気の出る言葉かけ」です。



①時間の「見える化」

夏休みの場合は、カレンダーなど見渡せるものを目付くところに貼ります。次に夏休みを大きく4つ位の期間に分け、「宿題は○日まで、科学実験は○日まで」等、やる時期を決めて書き込み、「見える化」します。こうすると、子どもはどの時期に何をやればよいのか、全体の見通しを立てられるようになります。また、1日の予定を大きめのホワイトボードに書き込んで、1日を「見える化」することも大切です。

予定表は、何を優先させるかお子さんと納得いくまで相談して作ってください。また一番重要なのが、決めたことが守られているか保護者の方が「見届け」をして、できいたら「ほめる」、できていなければ「守ろうよ」と声をかける。うまくいかない一番の原因是、保護者の方の「見届け」がおそろかになることです。

②やる気アップの「言葉」の工夫

夏は暑くて、計画通りに進まないこともあります。そんな時、「暑いから勉強できない。」と子どもがグチをこぼした時、「何言ってんの！」と否定するのではなく、「ホントに暑いねえ。」と、まずは共感してあげてください。共感することで、子どもの気持ちが落ち着き、聞き耳をもちやすくなります。否定的な言葉はやる気をなくすだけです。できるだけ肯定的な言葉で、気持ちを高めてください。

「半分だけやっておこう」とか「手伝ってあげる方一緒にやろう」など、取り掛かりのハードルを下げる効果的です。

いかがでしょうか。ぜひお家で挑戦してみてください。

月	火	水	木	金
8月末と9月始めの主な予定				25 2学期始業式
28	29	30	31	1
全校4時間 発育測定(1~3年) 給食開始	全校4時間 発育測定(4~6年)		カウンセラーによる 教育相談 放課後子ども教室	全校朝会
4	5	6	7	8
あいさつ週間④ (~8日)下浜町・横新町・縦 新町 委員会		自然教室1日目 (5年)	自然教室2日目 (5年)	いこいの森探検 (1・2年) 学校諸経費等振替日